

責任者 正実 敏
執行責任者 石川 勝
編集責任者 石川 他
編集員 2名

SEOS便り

平成二十四年度

新事業年度の抱負

常務取締役

古谷 正実

社員の皆様！毎日の勤務、お疲れ様です。新事業年度のスタートに当たり、私の抱負を述べさせていただきます。

私たちの目的は、三頁目に記載されております「経営指針」の遂行であり、増収増益に基づいた「事業計画」の達成であります。その基本となる考え方は

営業力の強化による新規顧客の確保
業務品質の向上による既存顧客の維持
財務体質の健全化による会社基盤の構築
労務管理の徹底による適正利潤の追求
人材育成の推進による将来への投資
法令遵守による危機管理意識の高揚
などです。

しかしこれらを具現化していく為には、私のリーダーシップはもとより、社員の皆様全員が「会社を良くしていこう」という強い意識が何より大切です。特に管理職の皆様には、自ら先頭に立ち、自ら結論を出す姿勢を持つて事に当たって頂くよう切望致します。そして本年の干支である龍のごとき勢いで全社一丸となって、事業目標達成に邁進していく決意であります。ご協力の程よろしくお願い致します。



取締役管理本部長

石川 勝敏

三月一日より新事業年度がスタート致しました。平成二十三年度は、東日本震災と津波による原発事故の影響が危惧されましたが、お蔭様でGMC・AGSの業績は共に目標(売上)には今一歩届きませんでした。全体的には評価に値する好業績で締めくくることができました。これも皆様方のご奮闘の賜物と改めて感謝申し上げます。

さて、本年度に目を向けてみますと決して予断を許さない状況にあります。国内においては震災復興や社会保障の立て直しに伴う財源の確保、即ち消費税の増税問題と政治の混迷が続いております。また、国際情勢ではユーロ圏の債務超過に端を発した財政危機や、普天間基地の移転問題、「TPP問題」、「領有権問題」等の国際関係の緊張が日本の経済発展に重くのしかかっています。

このような厳しい環境下にあっても将来の安定した事業継続と雇用の確保のため、より一層の研鑽と努力が求められる重要な年度になると認識しております。社員一人一人が、それぞれの職務の中で「工夫」と「知恵」を出し合って、この「経済水河期」を乗り切って行きましょ。是非、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

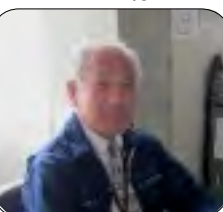


AGS事業本部副本部長(兼)機械警備部長

松本 孝次

AGSの平成二十四年度は増収・増益と適正利益の確保の年だと思っております。そのためには、更なる効率化を徹底して推し進める年だと思っております。

そこで皆様には「一人三役」を目標に掲げ、各自具現化しご努力をお願い致します。もう一つは、次世代基幹社員の指導・育成の年と思っております。SEOSブランドを活用し、新規顧客の確保と既存ユーザーとのコミュニケーションを図り、サービスの向上に努める所存です。



皆様のご協力お願い致します。

GMC事業本部副本部長(兼)施設部長

白濱 実幸

新体制二年目となる平成二十四年度は、増収・増益を基軸として組織力、現場力の強化を図り、信用力の拡大に努めます。

まず一人一人が、どうすればお客様から選ばれるかを常に考え行動して頂きたいと思っております。そして、その個々の創意工夫と行動の積み重ねこそ、GMCがお客様から選ばれ続け、信用・信頼を勝ち取ることが出来る唯一無二の方法と言っても過言ではありません。

新事業年度は利益面で大変厳しい年と予測しておりますが、GMCの発展のために全力を注いで参りますので、引き続き、皆様方のご協力の程よろしくお願い申し上げます。



常駐保安部長 中村 宏

昨年に引き続き「全員で増収・増益を達成させる。」をスローガンに本年度もSEOS営業の拡大、コスト削減を目標とします。特に昨年営業が種をまいた結果の実を生かすべく、現場隊員一人一人から本社に至るまで情報の共有化、迅速な報告・連絡・対応を心掛け、既存顧客の維持、新規顧客の開拓に邁進致します。また、基本業務の徹底を繰り返し教育・訓練し、本来の役割である安心を提供できる警備の実践に努めて参ります。



環境部長 児嶋 和彦

私は今年の五月に入社して丸十六年になります。当然厳しい年もあれば、順調な年もあったわけですが、本年は過去の悪い年三本指に匹敵する大変厳しい年になりそうです。そういった状況の中で、売上、利益の向上を追求する事は勿論ですが、そんな中でも

「明るく!」
「楽しく!」
「厳しく!」
「前向きに!」
チーム一丸となって困難な年を乗り切っていく所存です。



横浜支社長 岩澤 利彦

平成二十三年度は、事件、事故他諸問題を多く発生させてしまった横浜支社でした。新事業年度に入り、同じ過ちを起こさぬようコミュニケーションづくりに努め、営業利益達成を目指し、今まで以上に営業拡大に全力を傾注して参ります。また、後継者育成という大きな課題もあり、新旧交代には痛みを伴う事や困難に立ち向かう事も多いかと思いますが、皆さんの力をいただきながら邁進致します。



千葉支社長代理 岡野 勇

昨年三月十一日の震災による影響で、業務が縮小したり、大変な一年でありました。平成二十四年度も厳しい状況でございますが、警備と清掃と施設保守点検等をお客様側に立ち、売上の向上と当社のSEOS特性を生かした営業に挑戦するとともに、新規ユーザー開拓と後継者の人材発掘、資質の向上に努めます。更に企業倫理と社会規範を遵守し、想定外の事故にも対応できる組織作りや安全と安心を前面に、SEOS営業を強化推進して参ります。



埼玉支社長代理 尾崎 繁雄

平成二十四年度は、契約先との信頼関係を失うような事件・事故を起こさぬ職場環境を作り、売上拡大を目指します。現場勤務者とのコミュニケーションを今まで以上に密にし、快適な職場環境を作ることで、契約先に対しより良いサービスを提供できるように、契約先との信頼関係が保たれ、売上拡大に繋がります。そして、契約先との信頼関係を失うような事件・事故が起きない、埼玉支社にしていきたいと思っております。



営業開発室長 千葉 正昭

平成二十四年度の我々を取り巻く環境は非常に厳しい状況が予測されます。営業開発室はビルセクター全体の売上高の確保を第一として活動して参ります。昨年同様に新規顧客の獲得
SEOS営業の更なる推進
新商品・新業務の開発
を基本方針として少数精鋭で営業を推進して参ります。

各部門及び支社の方々のご理解とご協力をよろしくお願致します。



業務監査室長 只野 英康

大政奉還後の新政府綱領八策ならぬ「維新版・船中八策」が沸騰中。当社では一昨年の会社存続の荒波を乗り越え、また度重なる課題が改革改善され、普段の平穩を取り戻している今日、業務監査においては業務の見直しや効率・適正化を図るなど、その側面支援に努めているところです。今後社員皆様のご理解とご協力の下、「船中八策」ならぬ経営指針の遂行に貢献したいと思っております。



経理部長代理 砂田 隆

ビルサービスをとり巻く環境は決して良いとは言えない中、お客様との信頼関係を一層強固なものにしていかねばならないと感じています。

その為には経理部は事業部とも連携をはかり「もうかる経理」を目指したいと思っております。売掛金の減少・月次決算の期日内完成・経理業務の共有化(サポート体制)を図って参ります。新戦力の新人も加わり、更にパワーアップした経理部メンバーをよろしくお願致します。





平成24年度小泉グループ共通経営指針
《新たな革新と創造を目指して》
 激動する時代への更なる挑戦

1. 危機管理の徹底
事業継続は企業の責務
2. 後継者の育成
夢のあるところ豊かな人材の育成
3. 「選択と集中」で危機をチャンスに
新しい成長分野、新しい市場の開拓
4. 「ゼロベース」で見直す超効率化
英知を結集し新たな視点で挑戦

新事業年度
経営指針

平成24年度ビルセクター経営指針 (GMC・AGS共通)
《事業の継続を目指して...体力の強化と体質の改善を図ろう!》

1. 関係法令の遵守と危機管理の徹底
関係官庁との連携強化
2. 次世代基幹社員の選別と育成システムの構築
OJT実践教育の実施
3. 「SEOSブランド」と「グループシナジー作戦」の強化・推進
戦術の徹底と成果の追求
4. 費用対効果の徹底検証による収益力の向上
人的先行投資の検討



表彰

迅速な消火により見事鎮火

常駐保安部の齋藤理恵警備士が平成二十四年一月八日、配属先であるAB赤礼堂上野店において、火災発生時に消火器により迅速に鎮火させ、被害拡大を未然に防止したとして、一月三十日日本社において表彰されました。



常駐保安部
齋藤 理恵 警備士

地域の環境美化に貢献

小田原営業所の田村幸夫警備士が平成二十四年二月十五日、小田原市より環境美化活動の表彰をされました。田村警備士は環境美化推進員を平成十九年度より二期務め、現在三期目を務めています。また、ごみ集積所のパトロールのほか、みどりの広場の除草等を実施しており、街頭ポイ捨て防止キャンペーン等に参加し、地域の環境美化に努めています。

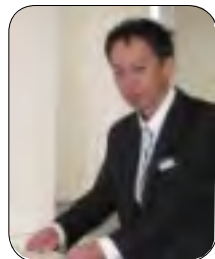


小田原営業所
田村 幸夫 警備士

中央水産研究所

市場化テストで落札

当社既存物件である中央水産研究所の、国の市場化テストが実施され、大手ライバル会社との競争を勝ち抜き落札しました。この件に関し、営業開発室の齋藤課長がJV構成会社との連携・協力のもと奮闘努力した結果として、三月五日日本社において表彰されました。



営業開発室
齋藤 勝利 課長

安全衛生委員会より

一月、二月は全国的にインフルエンザが流行し、本社においても数名がインフルエンザに罹ってしまいました。現在では流行のピークは過ぎたようですが、まだまだ注意が必要です。体調が悪い時は無理をせず、休養を取って病院に行くようにしましょう。また熱が下がっても体内に菌がまだ残っているの、四、五日はなるべく休み、周囲への感染を防ぎましょう。そして復帰する際は治療証明書等の提出をお願いします。まだまだ油断せず、予防対策を十分行いましょう。